

島根半島一漁村の学童調査

内 山 登 美 子

I ま え が き

現代の教育は教師の理論の押し付けや、教科内容のたたきこみであつてはならないことはいうまでもなく、さらに児童、生徒の自発的活動を引出し、その意慾を核心としてつみあげられねばならない。とすれば教育の理念、方法、教科内容などの教師側に属すると普通考えられるものをよく研究するとともに、児童、生徒側、すなわちその素質、環境、関心などをよく知ることが、これまた必要不可欠なことである。

児童生徒に関する一般的知識は近来非常に高まつて来ている。すでに多くの研究業績も発表されている。しかしこれを細かく考えると、いろいろな立場や観点から沢山の階層、集団にわけることが出来、それぞれの分野における研究となれば、ようやく始まつたばかりであるといつても過言ではあるまい。

この研究は島根県下の一漁村部落、とくに近親結婚の濃厚な地帯における学童の身体発育並びに精神発育の実態調査である。

遺伝が身体並びに精神発達に深い関係のあることはいうまでもない。とくに近親結婚がこれ等にどういふ結果を示すかについては、特殊な事例の研究は詳細なものがあるが、一般的なものは比較的少い。近親結婚がややともすると望ましくない結果となることが認められて、最近近親結婚の集団的な存在は段々少なくなつて来ているが、後進地域であり、貧困な島根県においてはまだまだ近親婚の濃厚地が少くない。この研究の対象とした学童の地域もその一つである。

以上のような観点から遺伝特に近親結婚が学童の身体並びに精神発育にどんな関係を持つかを明かにし、現代における学校教育並びに社会教育の推進にいく分かでも役立てたいというのが私の期待である。

II 調 査 方 法

本調査は昭和31年8月上旬から下旬にわたつて行つたものである。調査実施にあたり、鹿島町立恵曇小学校長、並びに先生方、地元役場の関係諸氏、片句婦人会長、部落会長、地元長老の方々に本調査の目的、方法を十分に説明して協力を頂いた事は勿論であるが、鳥取大学医学部精神科主任教授新福先生並びに管野先生の御指導御協力と、島根大学教育学部の女子学生二人の協力によつてなされた。

調査方法は調査地に出かけ聴取りの方法によつた。

調査用紙第1, 第2, 第3の3通りを用意して8月5日から鹿島町役場に出かけ, 明治5年
以来の戸籍簿によつて調査を初めた。30年間同町の戸籍係をして来たという係りの方からの聴
き取り記入が来る日も来る日もつゞいた。

役場での調査がおわつてから調査部落に出かけた。

同地に住み, かつては長年同地分校で教職につかれ, 現在は婦人会長として社会教育につく
されている, 山本富子氏宅に出かけ, 同氏及び御主人, 御母堂の協力によつてつぶさに各戸の
事情を聴取した。

一応部落全体の調査がおわつた後, 学童のある家庭のみを抽出し, 学童1人づゝ第1, 第2
調査用紙に必要な事項を記入して学童の家庭訪問を行い必要事項を聴取した。部落会長並びに同
部落の方々との協力ですべてが好意的に行はれ調査もはかどつた。

8月23日と24日は学童を学校に集めて知能テストと, 菅野医師による身体検査を行つた。4
月学校で行われた身体検査の結果も利用した。

第3調査用紙は学童の担任教師に記入を願つた。

尙知能テストは田中B式を用いたが, 学校でなされたテストを利用し今度のテスト結果は参
考にした。

尙部落民の人口動態, 罹病状態は全町保健婦小川淑子氏の協力により役場の資料や直接医師
にあつて聴取して頂いたものである。

又長年同部落で助産婦を開業している方の協力も加つている。

使用した調査票は次の通りである。

調 査 表

1. 家族構成 人員 名 姓 (第一調査用紙)

続柄	年令	職業	知能程度	離別死	婚居別	現在症	アルコール嗜癖	高血圧	小児夜驚けいれん	備考(転出家族)

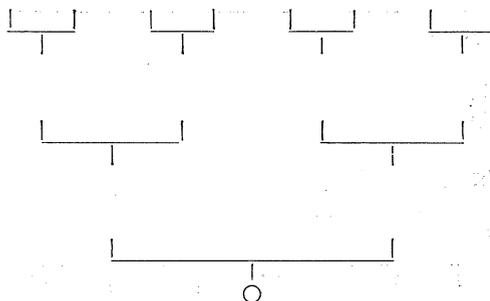
(註) 世帯主を中心として世帯主には○印を符すこと。曾祖父以下の死因を備考欄に記入のこと。

2. 村内者か。外来者か 然り。 否。 (この場合は、何時から来たか)

3. 病症関係

イ. 精神病	続柄	初発年齢	未治・治療別	独・非独別	備考
精神分裂病					
躁鬱病					
進行まひ(梅毒)					
てんかん					
ロ. 異常性格(変り者)					
ハ. 低能					
ニ. 自殺者					
ホ. 犯罪者					
ヘ. 聾・啞・盲					
ト. 変死					
チ. 神経症・神経衰弱					
リ. その他					
ヌ. 畸形					

4. 遺伝歴及び病者の同胞関係(曾祖父母迄の家系調査)



5. 症状の概要

6. 血族結婚

① 曾祖父母以降の有無

② 従同胞(イトコ)婚数

③ いとこ半婚数

④ 再従同胞(フタイトコ)婚数

7. 乳幼児死亡原因

年齢	死亡年	原因	年齢	死亡年	原因

児 童 診 断 票

(第二調査用紙)

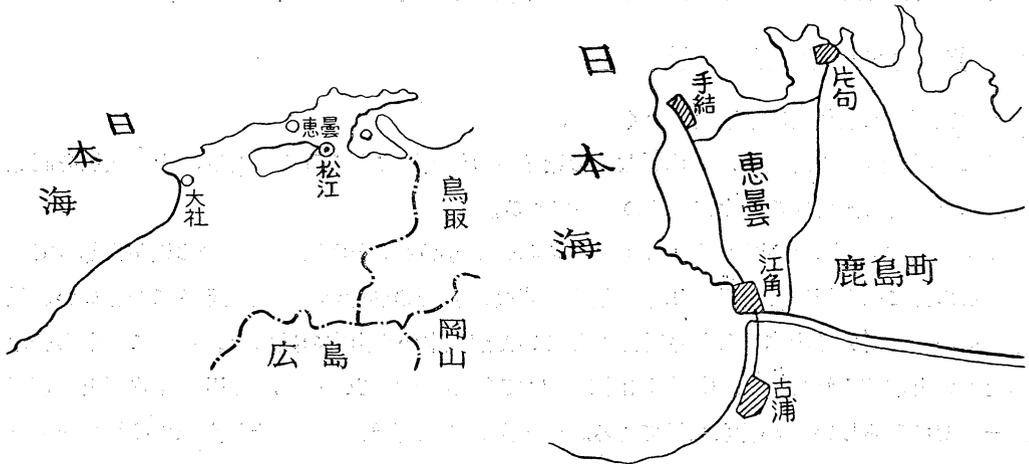
児童名	男 昭和 年 月 日生		保護者	氏 名				
	女 満 才 月		氏	名				
胎 生 期								
生 産 時 並 に 乳 幼 児 期	熟産・早産 (ヶ月) 生下時体重 匁 (g) 出産状況 (安・難・鉗子・仮死) 栄養 (母・混・人) 授乳状況 歩き初め者 カ月 発語 カ月 主な保育者 主な病 症 傷 ん 欲 食 眠 尿 癖 外 け い れ							
精 神 検 査	$\frac{M. A}{C. A}$ I. Q. () 容 貌 言 語 動 作 態 度 感 性 情 格							
身 所 体 見	身 歯 体	長 列 型	体 色 畸	重 神 型	頭 聴 力	頭 形 ど も り	耳 視	疾 力 右 左
医 診 学 的 断								

(第三調査用紙)

日 常 行 為
学 業 成 績
学 校 に お け る 性 行
通 学 状 況
交 友 関 係
身 体 検 査 の 結 果 特 記 す べ き 事 項 (体 型 、 目 、 耳 、 言 語 等)
性 格

Ⅲ 片句というところ

この研究の対象となつた学童の居住地島根県八束郡鹿島町字片句は「まえがき」にも述べたごとく近親結婚の県下でも有数な濃厚地帯であるように思う。近親結婚がこのように盛んであるについては、自然的、社会的ないろいろの原因があると思われる。学童の身体並びに精神発達についても環境を無視することはできない。これ等の種々の点から先ず片句の環境について略述しておきたいと思う。



島根県八束郡鹿島町字片句は松江市の西北方3里余りの地、島根半島の北岸にして日本海に面している。松江市より一畑バス恵曇行きにて終点恵曇町で下車一里あまりの山をこした北浦海岸に位置する純漁村部落である。島根半島北岸は急斜面をなして山が海にせまり、小さな屈曲が多い。ことに片句は土地がせまく海岸は断崖をなしている。したがつて交通も非常に不便なところである。今日では恵曇町に通ずるやゝ広い1本の山路も出来ているが、昔は多く小舟をあやつつて他と交通したことであろうと想像すると、まことに不便であつたらう。ことに日本海は冬期は荒天の日が多いことを考えると、交通不便は想像以上ではなかつたらうか。

片句は脊後に少しばかりの段々畑をはさんで島根平島の脊梁山脈をひかえている。前面は、西が高城が鼻、東が「ボダラガ崎」にかこまれた湾口二丁余りの小入江で、三つの小さな窪を形作り、そこに104戸の人家が密集している。

住民の生業はいうまでもなく漁業である。片句はもともと釣漁専門の地であつたが、最近はいづれ地曳その他の網漁が導入されている。そのほか当地方は古来わかめ、のり、てんぐさなどの海草類の採集が行われ、その産額も相当であり質も良質である。これ等の海草類の着生は、海岸が岩礁をなしていることを証するものである。そのほか農耕も多少行われているが、これは面積も収穫も僅かである。なお脊梁地の山林からは薪炭が十分に供給されている。

家は多く二階作りであるが、これは土地のせまい結果と推測される。したがつて各戸とも広場というものをほとんどたず、重なるように並んでいる。道路もいたつてせまく、ところどころに共同井戸があつて、その周囲がやゝ広い共同の洗場となつている。このような部落の密

集生活状態がこゝに住む人たちの意識に色々な作用をしているだろうと思われる。

部落の起源についてはいろいろないゝ伝えがあるが、要するに他の土地から僅かの戸数が何らかの機会に移住したものであろう。これ等がその後次第に分家したり、さらに移入するものなどもあつて、今日の戸数に達したものだと思はれるが、未だに草分けの家、頭分などの区別があつて、この部落の封鎖性をものがたつている。

このような自然環境と社会条件に支配されてこの部落は近親結婚が非常に多い。この点についてはとくに詳細な研究の必要を認めたので次章に改めて摘記したい。

Ⅲ 片句部落の家族環境

島根県下には近親結婚濃厚地が少くない。

私は漁村、沙丘周辺地帯、農山村などの近親婚の代表的なところを調査し、その状況を記録統計したいと考えているが片句もその1つである。

先ず片句104戸中、山本姓が52戸、中村姓が36戸、小竹姓が10戸でこの3つの姓が大部分であり、この外には金坂姓が2戸、田中、猿渡、若折、嶽野の各姓が1戸を数えるに過ぎない。最も多数を占めている山本はもと井川と称していたが途中から山本の姓に変わり、ここから分出したものと信ぜられている。中村は山本について多数を占めているが、井川、山本系とは別系の一族であるらしい。小竹も同様である。片句住民の大部分がもともと僅か三つの祖先から分れたことになるので相互の血縁関係がはなはだ近いことになる。したがつて各戸相互の血縁関係が濃厚であるのみならず、この部落の自然的、社会的環境のため他部落との交渉、ことに結婚がむづかしく、多く部落内結婚が大多数を占め、したがつて近親結婚が非常に多い。なかには数代に亘つて血族結婚が行われている例も少くない。これ等の婚姻状態を見ると第1表の如く、いとこ婚が107組中23例、いとこ半婚が2例、二いとこ婚が7例、計32例(30%)であり、片句内の知人同志の結婚が50例(47%)で、部落外よりの結婚は25例(23%)である。

なお鹿島町役場の戸籍簿による調査では、明治5年現在では山本姓が53、中村姓が44、小竹姓が11、金坂姓が3、春山、増田、高橋姓各1の114戸であり、同じく明治18年現在では山本姓53、中村姓41、小竹姓11、金坂姓3、青山、増田、中島、北川、兼折、高橋姓各1の同じく114戸である。戦後は新戸籍法に

第1表 婚姻の状態(107組中の血族結婚)

	いとこ	いとこ半	ふいとこ	た	計	部落内 知人	部落 外より
父方	2	0	0		2		
母方	3	0	2		5		
両方	18	2	5		25		
計	23	2	7		32 (30%)	50 (47%)	25 (23%)

よつていので住民登録によつて調査すると、山本姓81、中村姓51、小竹姓17、金坂姓4、甲斐姓2、青山姓2、嶽野、田中、久谷、増田、藤森姓各1計163世帯となつているが、実際の生活は前記の104戸の中で昔ながらの姿で生活している。

又片句と他町村との婚姻による交流を見ると第2表の如くで、多くは出漁中に結ばれたものらしい。片句より婚姻によつての転出は第3表の如くであるが、いずれも比較的少いことがわ

各戸の家族構成に関しては第4表の如く約半数の47%が単純家庭であつた。1戸構成人員の

第5表 家庭の中の夫婦の組織

	1組	2組	3組	やもめ	独身	計
直系	62	18	2	13	3	98
傍系			1		5	6
計	62	18	3	13	8	104

完全家庭 83軒 (80%)

不完全家庭 21軒 (20%)

平均も5.7人で日本全体の1戸平均人数よりもやゝ多いが、農村の1戸平均人数よりも少ない。又子供の相当ある家庭もあるが、子なしの家庭も目立つた。

家庭内の夫婦の組織について見ると第5表の如く約80%が完全家庭で、20%が不完全家庭である。漁村の不慮の災害や戦争による影響が考えられる。

V 片句部落の文化環境

部落内に鹿島町立恵曇小学校の片句分校がある。1, 2, 3, 4学年は分校で複式授業を受け、5, 6学年は恵曇町の本校に通っている。現在の児童数は82名でうち分校生徒60人、本校生徒22名で類別すると第6表の如くである。

分校がおかれているということは、それだけですでにこの部落が文化的にめぐまれた環境でない事を意味している。

尙片句在住者の学歴を調べると第7表の如く、60才以上の高齢者では3分の1が無学で読み書きが出来ない。又60才以下の人を調べても戦前では部落出身者は唯一人の島根師範卒業者を出しているのみである。これ等の点から

考えても文化的にはおぐれていると考えられる。

第6表 片句学童数

学年	1	2	3	4	5	6
男	9	10	13	6	4	10
女	5	6	4	7	2	6
計	14	16	17	13	6	16

計 82 60 - 分校 22 - 本校

第7表 学歴調

1. 尋常小学6年制度以前

	年齢	男女	才			計
			81以上	71以上	61以上	
無学	男		1			1
	女		8	10	4	22
読書少々	男		1	4	3	8
	女		1	7	3	11
よく出る 4年卒	男			6	10	16
	女				11	11
その他	男					
	女				1	1
計						70

2. 尋常小学6年制度以後

	年齢	才									
		56以上	51才~	46才~	41才	36才	31才	26才	21才	16才	
尋常小学卒	男	5	14	11	3	4	2	2	2		
	女	10	13	17	17	17	24	10	2		
高小学等卒	男		2	5	3	14	15	12	28		
	女						2	15	23		
旧制中学校	男										
	女					他より 島師 1					
新制高校	男										
	女							他より 高女 1	高女 1	高女 1	
									産高 1	義高 1	
									三 1	務 1	
									制 1		

文化施設の面から新聞、ラジオの購読、聴取状況を見ると第8表の如くである。

ラジオ，新聞もない家が可成の数を占めている点が注目される。

これに引きかえ旧来の講の類は非常に盛んである。お大師講，天理講，一畑講，北島講，金比羅講などで随分古い伝統をもっているものも多く，これ等への参加者も相当多い。

第8表 文化施設

1. 全家庭有線放送		2. 新聞 ラジオ			
	新聞 ラジオ	新聞のみ	ラジオ のみ	電灯の メートル	ミシン
戸数	31	13	24	37	9

第9表 生活程度

	上級 31%			中級 37%			下級 32%		
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級
戸数	8	10	14	14	15	9	16	10	8
%	8	10	13	13	14	9	15	10	8

要保護 9 軍人遺族 10 (内6軒は独立)

なお部落の生活程度を見ると第9表の如く全体を3段階にわけ，更に3通りにわけるとほぼ各階級が3分の1位になる。

最旬に片旬の人口動態を見ると第10表の如くである。乳児死亡は少い様である。

第10表 片旬人口動態 (昭和27年~31年)

	出生と死亡			死亡原因				
	出生	死亡	乳児死亡	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和31年
昭和27年	17	5	0	老 衰 2	中,神,血,損 3	中,神,血,損 2	老 衰 4	老 衰 1
" 28 "	16	9	1 (麻疹)	中,神,血,損 1	老 衰 2	老 衰 2	心臓疾患 3	癌 1
" 29 "	15	7	1 (發育不良)	心臓疾患 1	癌 1	癌 1		中,血,損 1
" 30 "	8	8	0	不慮の事故 1	結 核 1	心臓疾患 1		不慮の事故 1
" 31 "	15	4	0		心臓疾患 1	不慮の事故 1		

但し中,神,血,損=中枢神経血管損傷の略

Ⅵ 学童の調査

片旬部落が近親婚濃厚地である事は前述したが，学童の両親の結婚について調べて見ると村内同志の結婚は53例中38例(71.69%)である。血縁同志の結婚は第11表の如く，いとこ婚が13例(25.0%)，いとこ半婚1例(1.93%)，二いとこ婚4例(7.69%)，計18例(34.62%)，この他の血縁者の結婚が11例(21.15%)，総計29例(55.77%)。この中で数代にわたる重縁のもの16例(30.77%)に及んでいる。

家族又は血縁者の病気その他について調べると第12表の如く，兄弟，両親に知能の低いものが相当ある。精神的傾向

のあるものも多い。色弱，弱視，難聴なども出ている。

胎生期を見るにひどい悪阻その他もあるが大体問題はない様だ。

第11表 血縁同志の結婚

いとこ	13	(2.5%)	} 18 (34.62%)	} 29 (55.77%)
いとこ半	1	(1.93%)		
ふたいとこ	4	(7.69%)		
これ以外の血縁 数代に渡る血族結婚			11 (21.15%)	

出産も難産の2例をのぞき全

第12表 家族及び血統者の病氣

部が熟産の安産である。生下時	兄弟低格	6	神経衰弱	3	変死	2
の体重を見るに900匁以上が11	父低格	5	肥満症	3	弱視	2
人であるが全体の平均値は普通	精神異常	4	おじ白痴	2	母低格	1
かやや小さい方である。母乳栄	異常な無口	4	色弱	2	難聴	1
養の割合も61%でありよい方	性格異常	3	眼疾	2	入学ゆうよ	1

ではなく、農村にくらべると相当低率だと思ふ。

始歩、発語も普通であるが、離乳は遅延の状態である。

子供達の生活は祖母の手によるものが非常に多い。父親は夕方から仕事に出かけ、翌朝漁獲物を市場に出して帰宅し、母親はその頃から行商に又は畑仕事に出かけるので無理もないと思ふ。

乳幼児期の病気の主なるものを見ると、はしか21例、耳疾10例、病的な野菜嫌い6例、百日咳4例、肺炎4例、腫物、ジフテリアの各2例、腸炎、日本脳炎、脱腸、鼻疾、心臓弁膜症、ぜんそく等1例づゝある。はしかは小児病として幼児期にはほとんど皆一度はやるが、耳疾が多い。ひどい難聴もある。

知能発育については主として学校で行われた知能検査の結果を利用したので、学年によつて知能指数の出でいるところと、知能偏差値の出でいるところとあるが、学年全体の平均値に対して片句の学童の平均値を比較すれば大凡その事が判定出来ると思ふ。

1年生は非常に悪く14例中劣が8例57%で半数以上である。知能偏差値49が1例55が1例で全体に悪い。血族婚の学童は全部劣である。

2年生はやゝ良くなり劣が2例で知能偏差値51以上が5例もあり、分校の平均が45.2に対し学年平均は68.3で分校がはるかにおとつている様だ。血族婚の学童は更に劣り平均が44.1となつた。

3年生はI.Q75以下が2例、76~90の中間児が3例、91~110の普通児が10例、111以上が2例で平均87.4である。学年平均の90.2に比較するとやゝ低い。しかし血族婚の学童の平均は95で学年平均を上廻つている。

4年生は知能偏差値が劣が1例あるが平均が57.8である。学年の平均値が不明で比較が出来ないが普通と思ふ。血族婚の学童の平均は53.6で低い。

5年生はI.Qの平均が99.5で、学年平均の100.07よりも少しおとるがまず同程度位だろう。血族婚の学童の平均は99.3でおとつている。

6年生はI.Q67が1例あるが知能指数平均は93.4で、学年の平均値103.7よりは少し低い。血族婚の学童の平均は101.1で学年平均よりもおとる。以上知能発育を見るに低学年に知能発育遅滞児が多く、高学年に進むにしたがつて差が少くなる

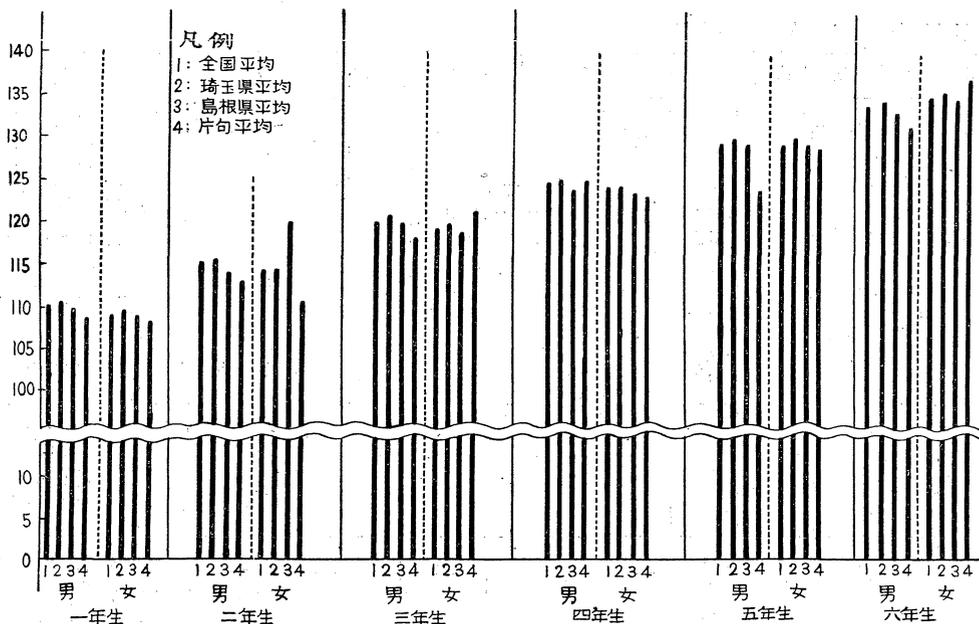
精神検査の内、性格については第13表の如く各学年別の1覧表を作つた。温厚の17例、無口の13例、真面目の11例、軽卒9例、多弁8例、正直8例、鈍感7例等環境性が考えられる。

身体的所見は各専門医の厳密な診察を必要とするが、今度は管野医師の診断と学校の身体検査結果によつた。身長と体重については第14表、第15表の如くそれぞれ学年別に全国平均、埼玉県平均、島根県平均と比較した。男女に分けて見ると一・二他をぬきんだでところもあるが

第13表 学年別性格一覽表

		学年							学年							
		1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	
温厚	厚			8	9		17	緘	黙	2						2
無口	口	3	3	1		3	13	い	ん						2	2
真面目	目	3		4	4		11	依頼	心強		2					2
軽卒	卒	1	3		1	4	9	おと	な		1					2
多弁	弁	4	4				8	乱	子		2					2
正直	直			4	4		8	調	か		2					2
鈍感	感	1	6				7	恥	か		2		1			2
短気	気		4	1			6	責	任	1						1
小心	心	3	1			1	6	泣	む		1					1
不活	活			1	1	2	6	無	作							1
活	活	1		1	2		5	逆			1					1
活	活	4		1	2		4	無	邪				1			1
活	活	1		1	2		4	無	邪				1			1
乱親	和						3	他	人				1			1
親	人						3	ぼ	う				1			1
根	少	2		3			3	移					1			1

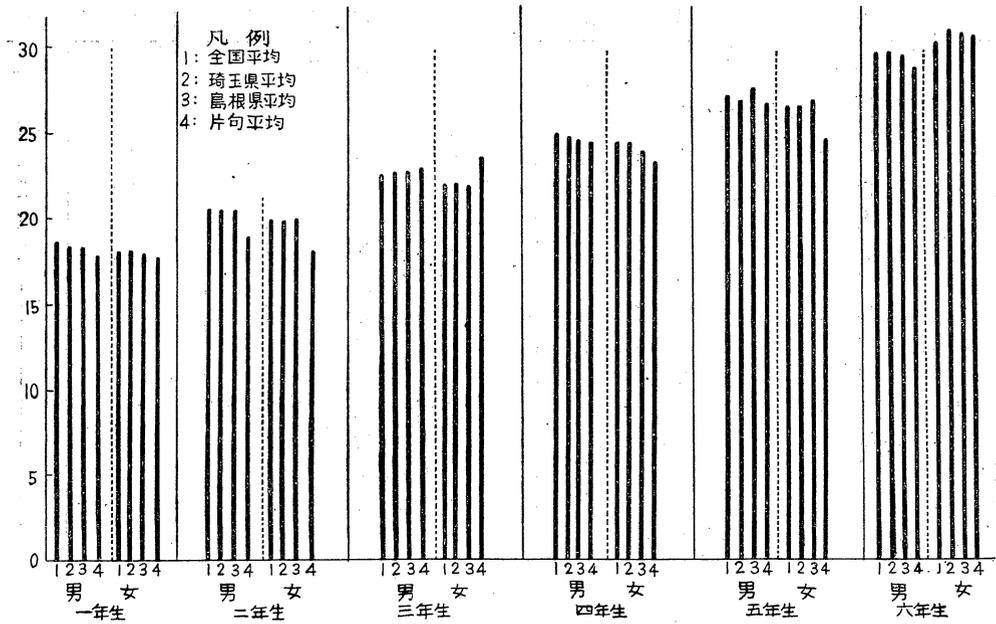
第14表 身長の比較



ほとんどが劣っているようだ。血族結婚の家庭の子供の身体発育を見ると、他との比較が出来ないし例数も少いのではつきりいえないが学年の平均値を下廻っているものが多い。

その他頭型、耳疾、歯列、色神、聴力、どもり、視力、体型、畸型等についてまとめると第16表の如くである。トラホームの23例、扁桃腺肥大の16例、難聴7例、中耳炎4例、体型異状が5例、色盲2例、色弱1例、その他口蓋垂の右曲、左曲等相当あつた。漁村地域にトラホーム

第15表 体重の比較



第16表 身体的所見

学年	頭型	耳疾	歯列	色神	聴力	どもり	視力	体型	畸型	その他
1		中耳炎 1			難聴 1			肥満型 2		トラホーム 4 扁・肥 3 口蓋垂左曲り 1 軽前頭症 1 心臓 1
2		〃 2		紅緑色盲 1	〃 4		ひどい近視 1 近視やゝ多し	小型 1		〃 2 〃 1 口蓋垂 耳短 1 左曲り 左大 1 右曲り 右角膜混濁 1
3	後方細長い 1	〃 1		色弱 1	〃 2		短頸 1 肥満症 1			〃 6 〃 3 口蓋垂 左曲り 1 先二分 1
4				紅緑色盲 1						〃 4 〃 4 〃 左曲り 1
5										〃 2 〃 2 〃 左曲り 1 先二分 1
6										〃 5 〃 3 〃 右曲り 1 短く横広 1 心臓弁膜症 1

細長型 1 中耳炎 4 紅緑色盲 2 色弱 1 聴難 7 ひどい近視 1 近視やゝ多し 肥満症 3 小型 1 短頸 1

トラホーム 23 (約30%) 扁・肥 16 (扁・肥は扁桃腺肥大)

口蓋垂 左右先短心角膜混濁大頭症 1 左曲り分横膜混濁大頭症 1 右曲り先二分 1 短左不揃 5 3 2 1 1 1 1

患者の多いのは環境衛生の低さを物語っている。遺伝負因を思わせる色盲、難聴には注意を要すると思う。畸型児の出生は1例もなかった。

参考までに学年別調査表をのせておく。

第3学年 17 { 男 13
女 4

番号	男女	結婚	胎生期	出産 熟・早 難・鉗	体重	栄養	始歩	発語	離乳	主な 保育者	主な病氣	知能 指数	精神検査					身体的所見							その他								
													容貌	言語	動作	態度	感情	性格	身長	体重	頭囲	頭形	耳疾	歯列		色弱	聴力	さもり	視力	右左	体型		
4'	♂	いとこ		熟・安	750	母	月12	普	年	母		83					口をあげボ カンとして いる											1.5 1.0	短 肥満	扁・肥			
6'	♂	いとこ		〃	1200	母	15	〃	3	母	左耳ききに いより高所 倒落 後頭部2針	96							温厚									0.8 1.0	扁・肥 トラホーム 口蓋垂 先2分				
7'	♂			〃	900	母	12	〃	1.5	祖母	4才 左中耳 難聴	92					勤 勉			温 従					左 難 中 耳 炎		1.5 1.5	トラホー ム					
9'	♀			〃	650	混	普	〃		祖母 十母	耳きこえに くい	100					よくすわる なまける								右 難 中 耳 炎		0.8 0.8	扁 肥					
10'	♂			〃	920	母	13	〃		母 十母	5才 鼻に外 傷	93					真面目			温 良							1.0 1.0						
16'	♂			〃	750	母	15	〃		母	3才 小児マ ヒ 耳 悪し 偏食	66					口をあげボ カンとして いる										0.8 0.8	トラホー ム					
23'	♀	いとこ		〃	700	母	11	〃		母		95					まじめ 熱心			温 良							1.2 1.2	トラホー ム					
30'	♀			〃	650	混	13	おそ い	3	祖母	6才 はしか	102					まじめ 正直			従 順							1.0 1.2	トラホー ム					
35'	♂			〃	720	母 貴乳	15	普		祖母	0.6 重い腸炎	102							快活	温 順							1.5 1.5						
37'	♂		ぜんそ くにて 危険状 態	〃	760	母	15	〃		母	生直後 中耳炎 6才 高所よ り転落	83					正 直			温 順 内向型							0.8 1.0		色弱				
38'	♂	血		〃	1000	混	15	〃		祖母	脱腸手術	112															1.0 1.5						
39'	♂			〃								112															1.5 1.5						
40'	♂		つわり	〃	800	母	2才	おそ い		母		53					落着きな しなして 口をあ いてい る			悪気なし					後方に 細長い						精 薄		
41'	♂	いとこ		〃	900	混	11	早		祖母		79					正直 淡白			温 順							0.9 1.2						
42'	♂	いとこ		〃	600	母	12	普	3	祖母	はしか	98								温 厚							1.0 1.0	口蓋垂 左曲り					
43'	♀	血		〃	810	母	12	〃	4	祖母 十母	はしか	102			無口	不活 発				おとなし							0.8 0.9						
51'	♂			〃								108					正 直			従 順							1.0 0.9	トラホー ム					
男女 計	13 4 17	いとこ 5 血婚 2 血・婚 41.2 %	ぜんそ く つわり 1	全 部 熟 産 14 難産 1	平均 807.3 処 血族婚 平均 851.4 処	母 10 混 4 貴乳 1 母乳の 割合 66%	普通 やゝ 遅い	普通 遅い もの 2	遅い もの 2	母 6 祖母 6 母と 3 祖母 3 祖母 手かた 率 60%	はしか 3 耳炎 4 難聴 4 高所よ り転落 2 腸炎 1 脱腸 1 鼻疾 1	75以下 2 76~90 3 91~110 10 111以上 2 計 17 平均87.4	血族婚 75以下 0 76~90 2 91~110 4 111以上 1 平均 95															平均値 男 119.1 22.9 51.4 女 121.8 23.7 52.6 全 119.7 23.08 51.7 血・婚 118.65 22.9 51.98	中耳 炎 1	色弱 1	難聴 2		扁・肥 3 トラホーム 6 口蓋垂 先が二つに 分れている 1 左曲り 1

第4学年 13 { 男 6
女 7

番号	男女	結婚	胎生期	出産 熟・早 安・難	体重	栄養	始歩	初語	離乳 完了	主な 保育者	主な病気	知能 指数	精神検査					身体的所見							その他					
													容貌	言語	動作	態度	感情	性格	身長	体重	頭囲	頭形	耳疾	歯列		色相	聴力	どもり	視力 右 左	体型
48'	♀			熟安	750	母	月15	月 早め	年	母		62				従順		温和	122.4	24.5	52.0							1.5 1.5	扁・肥	
47'	♀			〃	780	母	13	普		祖母		47				やゝ軽卒		温和卒	128.0	28.0	54.0							1.0 1.5	トラホーム	
46'	♂			〃 難・鉗	770	母	10	おそ い		母		62				積極的	快活	温和	123.4	22.3	50.0							0.9 0.9		
45'	♂			〃安	600	母	13	普		母		58				良好 時にすね る		温順	126.2	25.5	52.5							2.0 2.0		
44'	♂	血		〃	800	混	11	〃	4	母	はしか	63			活気	真面目		温厚	119.4	22.5	50.0							1.2 1.2	トラホーム	
52'	♀	いと こ		〃	800	人	11	8		母		57						温良	116.8	19.5	50.5							0.4 0.5	トラホーム 近視 扁・肥	
41'	♂	いと こ		〃		混		早い		祖母	肺炎 弱 ジフテリア	50				勤勉		温順	129.8	24.5	51.5							1.0 1.0		
36'	♀			〃	650	人	15	15		母		55				〃		従順	127.4	21.8	51.5							1.0 1.0	扁・肥 口蓋垂 左曲り	
34'	♀		悪阻 ひどし	〃	860	母	11	普	3	祖母	2才 百日せき 3才 脚腫物入院	73							125.8	26.3	53.5							1.5 2.0	トラホーム	
33'	♂			〃	800	母	11	早		母		66			活気 乏し			温厚	122.8	23.6	52.5							2.0 1.2	扁・肥	
31'	♀	いと こ半		〃	800	母	10	普	3	祖母	はしか	42				熱心		真面目	125.2	22.5	52.2							1.5 1.5		
22'	♀			〃	900	母	14	〃		母	3才 はしか	61				まじめ		温正 和直	119.0	22.5	53.0							0.2 0.3	近視	
21'	♂	二いと こ		〃	850	母	13	13	3	祖母	3才 百日せき 5才 はしか	56				やゝ不従 順		温和	130.8	29.5	53.0							1.0 1.0		
男女 計	6 7 13	いと こ 半 ふた いと こ 血 族 婚 率 58.4%	つわり 1	全 熟 難 産 鉗 1 他 は 安 産	平均 780 血・婚 平均 850	母乳 混合 人工 母乳 の 割合 69.1 %	平均 12.2 ヶ月 遅い もの 2 普通 11	不明	母 祖母 母+祖 母 母祖 の 手 に か つ た 率 38.4%	8 5 1 2 1	はしか 肺炎 百日咳 ジフテリ ヤ 腫物	4 1 2 1	平均 値 57.8						平均 値 男125.36 女123.54 全 124.3 血・婚 平均 125.76	24.48 23.72 24.07 23.88	52.36 51.78 52.05 51.7								扁・肥 トラホーム 口蓋垂 左曲り	4 4 1

第6学年 12 { 男 9
女 3 }

番号	男女	結婚	胎生期	出産 熱・早 安・難	体重	栄養	始歩	初語	離乳了	主な 保育者	主な病気	精神検査						身体的所見							その他							
												知能 指数	容貌	言語	動作	態度	感情	性格	身長	体重	頭囲	頭形	耳疾	歯列		色神	聴力	どもり	視力 左	視力 右	体型	
18'	♀	いとこ		熱・安	800	母	12	月普	年	母	やさしい	104			活発	乱暴		乱暴 持久力なし	132.0	29.0	50.5									1.0 0.9		扁・肥
17'	♀	血	下腹がよく冷えた	〃	800	母	12	〃	5	母	3才ひきつけ やさしい	114		無口		ひかえ目			130.0	27.7									1.0 1.0			
10'	♀			〃	920	母	14	〃		祖母	はしか やさしい	99		不活発	責任感強	親切	やく暗いが正直 礼儀正し		132.5	30.8	52.0								1.5 1.5		心臓弁膜症	
9''	♀			〃	650	混	普	〃		祖母姉	ぜん息	86			乱雑	むらあ	だらしない		127.0	27.4	51.0							1.2 1.2		トラホーム		
8'	♂											99		無口	おとなしい	はづか	非常におとなしい		129.4	26.6	52.0							1.2 1.2				
7''	♂		空襲中にてビクビク	〃	900	母	12	普	1.1	祖母	3才 ジフテリア	105		〃	不活発		涙もろい	内気	127.0	26.0	50.5							1.2 1.2		トラホーム		
6''	♂	いとこ		〃	700	母	15	〃		母	耳の手術 (中耳炎)	67			不活発			おとなしい	139.0	35.2	53.0							1.5 1.5		トラホーム		
5'	♂	〃		〃	800	母不足	15	10	3	祖母	耳痛	111			乱雑	見えぼる	調子の単純		131.0	28.7								1.5 1.5		トラホーム		
4'	♂	〃		〃	730	混	15	普		母	70日肺炎	104		ぐづ	はつきりせぬ		孤 独 いんき		143.5	34.5	54.0							1.5 0.9		扁桃腺 扁桃腺 口蓋垂 短かく横に 広い		
3'	♀		假時下食種に苦勞子供の出生を喜ぶ	〃	800	混	12	〃		母	心臓弁膜症	118			社交的	表裏なし	しつかりもの		134.7	26.8	50.5							1.5 1.5		口蓋垂 右曲 扁・肥		
2'	♂	二いとこ	つわりひどし	〃	750	混	10	〃		祖母		107		無口	女性的		おとなしい		127.5	27.5	52.0						1.2 1.2					
1'	♂		十二指腸虫	〃	670	母	17	〃	3	母+祖母					乱暴	したしみやすい	短 乱 気雑		140.5	32.5	51.5						1.0 1.0		トラホーム			
男女計	9 3 12	いとこ ふいとこ 血族	空襲の為 ビクビク 假時下食 種難 つわり ひどし 冷え症 十二指腸 虫	全部 産 安	平均 男 768.7 女 790 全体 774.5 血・婚 763.3	母 混合 4 母乳 の 割合 63.5 %	平均 13.3 月	普通	遅い	母 祖母 母+ 祖母 祖母 手にか つた 率 54.5%	5 ジフテリア 1 心臓弁膜症 2 耳 疾 炎 1 は し か 息 1 は し か 息 1 ひ き つ け 1 偏 食 1 野 菜 嫌 い 3	平均 93.4 血 族 婚 平均 101.1							平均 男 131.48 28.95 51.5 女 136.9 30.7 52.16 全 132.84 29.39 51.7 血・婚 130.25 27.95 51.4													扁・肥 3 トラホーム 5 心臓弁膜症 1 口蓋垂 短かく横に 広い 1 右曲 1

む す び

私共は島根県八束郡鹿島町字片 句部落の近親婚濃厚地の地域，家庭環境並びに小学校学童82名の調査をした。狭隘地域内支配を余儀なくせねばならぬ地理的条件をもつ僻地，内部条件としては同職業者の集団で家庭的条件の差異が少く，閉鎖された社会であり，外見的には安定しているように見えるが，保守性が濃厚で，家庭の内部に多くの問題をもっている事が学童青年の性格，行動にみとめられた

1. 次に私共の調査資料から身体発育を見るに，身長も体重もやゝ劣っている。
 2. 知能発達の面でも相当劣っている。ことに血族婚家庭の子供が更に低い様だ。家族並びに血縁者の中に知能発育の低格者が相当あるので，遺伝負因と考えられるものもあろう。環境性の遅滞児もあろう。無知と経済的原因からの栄養上の欠陥，養護あやまり等も考えられる。小学校1年生が最も悪く，2年，3年，4年と徐々に向上し，本校に行く様になると大差ないまでに発達してくる。
 3. 性格は一般的には僻地の子らしい重厚な無口なおとなしさが現われているが，高学年の乱暴，陰気等に部落民の団結，排他的対抗意識的なものがうかがえる。
 4. 身体的所見としては遺伝負因を思わせる，紅緑色盲の2例，色弱の1例，ひどい難聴7例等がある。血族結婚に起因しているものではなかろうか。
 5. 長い間血族結婚が続けられているにもかかわらずこれ等の外の遺伝性疾患，畸形のほとんどないのは片句部落集団に悪質な疾病の遺伝質が存しないのではなかろうかと思う。
- 最後にこの調査に御協力頂いた鹿島町立志曇小学校長並びに先生方，鹿島町役場の方々，片句婦人会町山本富子様，鳥取大学精神科主任教授新福先生並びに菅野喜与先生，島根大学教育学部学生天野敬子，今岡良子様方に感謝の意を表します。

参 考 文 献

1. 宮本常一 出雲八束郡片句浦民俗聞書 日本出版配給株式会社 1917
2. 中 脩三 異常児 医学書院 1952
3. 山根 薫 お母さんのための心理学 刀江書院 1957
4. 三木安正 精神薄弱児の実態 東大出版会 1956
5. 中 脩三 できる子、できない子 慶応通信社
6. 湯浅 明 あなたは何を遺伝するか 北隆館 1952
7. 大阪学芸大学家政科研究業績集 3 別刷志摩国片田村生活実態調査報告 1954
8. 駒井 卓 人類を主とした遺伝学 培風館 1952
9. 岡部重徳 血族婚地域における精神医学的一斉調査 精神神経学雑誌 59, 78, 1957
10. 遺伝学ハンドブック 技報堂 1936